

学生の実態に対応した社会科教育法の授業改善 ～授業評価に生かす提出物の分析、考察～

浅田 博

『教育学論集』第70号

(2018年3月)

学生の実態に対応した社会科教育法の授業改善 ～授業評価に生かす提出物の分析、考察～

浅田 博

1 はじめに

大学の授業改善については様々な先行研究がある。大学の組織的な研究・研修活動推進によるファカルティ・ディベロップメント（FD）については、優れた論文や資料が公表されている。それに関連して、各大学で行っているFD研修会のレジュメや報告書類は、分かりやすい貴重な資料となる^{*1}。さらに、日々の実践を振り返り、授業改善に取り組む地道な取り組みもある^{*2}。例えば、学生に授業前後の作業、および授業における主体的・積極的な姿勢を喚起する工夫をまとめた論文もある^{*3}。

以上の取り組みで共通の視点は、授業改善に学生の声を生かすということである。「学生による授業評価」はその代表的な取り組みといえるが、様々な視点からさらなる改善を試みる研究も多い^{*4～5}。

文部科学省は「平成26年度大学における教育内容・方法の改善等について」において、「学生による授業評価」を次のように述べている^{*6}。

教育の改善のための取組として、現在、多くの大学では、授業の改善点を見いだしたり、FDにより改善を図った授業の効果を検証したりすることなどを目的として、学生による授業評価も実施されてきています。（中略）

また、学生による授業評価に関連した特徴的な取組として、学生による授業評価と先述のFDとが組み合わせられたような取組も見られます。（中略）

各大学が授業を効果的に展開していくためには、FDの実施と併せて、学生による授業評価等により学生の意見を集め、その意見を参考にしながら授業の改善を進めていくことも重要といえます。

「学生による授業評価」の平均評価値を増加させることが、授業の質的改善に結びつくのかという問題提起もあった^{*7}。評価値が増加することは、学生の希望する方向に変化したといえるが、それで具体的な授業改善の方策が明確になるとは限らない。

以上のような先行研究を踏まえ、学生の提出物を授業改善に生かすことにした。学生は、「学生による授業評価」を意識してレポートを書くわけではないが、授業改善

のヒントを多く含んでいると予想した。本稿では授業改善の基礎資料として、講義の最終回に提出する「最終レポート」（以下「レポート」と表記）を分析、考察する*⁸。
（表1参照）

2 研究の概要

（1）研究の意義と予想される成果

2015年度および2016年度の前期に社会科教育法Ⅰ（以下「Ⅰ」と表記）を、同時期の後期に社会科教育法Ⅲ（以下「Ⅲ」と表記）を担当した。この2年間に「Ⅰ」と「Ⅲ」を共に履修した学生は、表1の18名である。両授業共、最終回に提出した18名のレポートを分析対象とする。レポートの4項目も共通のため、比較可能である。

表1 社会科教育法Ⅰ、Ⅲを履修した学生（18名）

NO	学生	「Ⅰ」	「Ⅲ」	「Ⅰ」	「Ⅲ」	レポートの内容（「Ⅰ」、「Ⅲ」共通） ≪1≫「模擬授業の準備で学んだこと」 ≪2≫「模擬授業を実施して学んだこと」 ≪3≫「模擬授業を参観して学んだこと」 ≪4≫「社会科教育法Ⅰ、Ⅲを受講して学んだこと」
NO	略称	2015 前	2015 後	2016 前	2016 後	
1	A	○	○			
2～3	B, C			○	○	
4～18	D～R	○			○	

特に、NO4～18の学生15名は、2年生前期に「Ⅰ」を、3年生後期に「Ⅲ」を履修している。大学生活4年間の中核を占めるともいえる時期に、まとめられた二つのレポートを比較し、分析、考察を加えることとした。

これにより、学生の実態が明らかになり、その意識や能力に応じた授業改善の工夫が期待できると考えた。

（2）研究の方向

「Ⅰ」と「Ⅲ」の授業概要を以下に示す。授業の基本的な流れは同じである。授業前半は、講義、演習等を行い、学習指導案の作成と模擬授業に向け理解を深める。授業後半は、模擬授業を中心に研究協議等を行う。

社会科教育法Ⅰ（2017年度シラバスより）

○授業前半……生徒が主体的に取り組む授業の実現を目指し、導入、学習形態、指名、板書、教材研究、資料の工夫など、実践的なスキルを身につける。特に、視聴覚教材の活用例、アクティブ・ラーニング（以下「AL」と表記）の実践例を理解する。

学習指導要領や教科書等を活用し、学習指導案の作成方法を理解し、学習指導案を作成する。(第8回に提出予定)

○授業後半……作成した学習指導案に基づき模擬授業を行う。標準的な中学校で、生徒の興味・関心を高める授業を展開できる資質と能力を養成する。最後に模擬授業の成果と課題をまとめ、今後の方向を考える。模擬授業を準備、実践、参観して学んだことをレポートとしてまとめ、提出する。

社会科教育法Ⅲ (2017年度シラバスより)

○授業前半……指導困難な中学校、高等学校でも通用する授業スキルを具体的に考察する。よりレベルの高い教材研究の進め方、指導計画の作成等の方法を理解する。特に、視聴覚教材の活用例やALの実践例を考察する。

同時に、学習指導要領や教科書等各種資料を活用して学習指導案の作成に取り組み、第8回を目途に完成を目指す。

○授業後半……作成した学習指導案に基づき模擬授業を行う。指導困難な公立学校でも、様々な工夫をして生徒の興味・関心を高める授業に挑戦する。最後に成果と課題をまとめ、教職への意欲を高め教員採用選考試験に臨めるようにする。模擬授業を準備、実践、参観して学んだことをレポートとしてまとめ提出する。

以上のように「Ⅰ」と「Ⅲ」では、授業を行う学校の想定が異なっている。したがって「Ⅰ」の目標は、「標準的な中学校で、授業を展開できる資質と能力」であり、「Ⅲ」の目標は、「指導困難な公立学校でも授業に挑戦する姿勢」となる。

本稿は、項目<1>「模擬授業の準備で学んだこと」と項目<4>「社会科教育法Ⅰ、Ⅲを受講して学んだこと」のレポートを、「学生による授業評価」の視点から分析、考察し、具体的な授業改善策を提示する。研究の方向は以下の通りである。

- (1) 抽出学生2名のレポートを分析、考察する。
- (2) 学生18名のレポートを一覧表にまとめ、内容を分類し分析、考察する。
- (3) 以上の分析、考察に基づき、授業改善の視点をまとめる。
- (4) それぞれの視点ごとに、具体的な改善策を提示する。

3 提出物の分析、考察

(1) 抽出2名の分析、考察

① NO11 学生Kの分析、考察 項目<1>「模擬授業の準備で学んだこと」
社会科教育法Ⅰ (2015年7月提出)

特に心がけた点は、生徒目線で準備をすることです。「教える」という立場だけの目線で準備を進めると、教師主導型の授業になってしまいがちであり、かつ

生徒主体の授業をつくることは厳しくなると思ったからです。

（中略）工夫した点は、アマゾン実際の写真を用いて、アマゾンの森林について、イメージをしやすくした点と、アマゾンで暮らす人々が行っている農業の様子を実際にイラストで紹介し、二つのイラストを見せてどのような特徴があるのか、かつそれはどうしてなのかということを生徒に考えてもらえるよう、一緒に考える時間を設けたという点です。もう一つの工夫した点は、紙しばい風のイラストを使って、焼畑農業について説明した点です。（後略）

社会科教育法Ⅲ（2017年1月提出）

生徒の目線で、「学ぶことの楽しさ」を感じる授業になるよう、ALを取り入れました。ALにおいても、自分が持っている知識をも活用できるように工夫しました。自分の持つ知識を活用し、学習を進め、その先に発見や驚きがあると、「へえ！そうだったんだ！」など「学習の手ごたえ」が一段と強くあると思ったからです。

また、学習指導要領をしっかりと読み込み、何が求められており、何がポイントなのかをしっかりとおさえる努力をしました。その中で、学習指導要領で何が求められ、授業でどういう工夫をすれば良いのかということをしっかりと学ぶことができました。

分析

「Ⅰ」では、前半の「（中略）」の部分を含め、持論（「生徒目線」）を理由とともに展開している。後半は、具体的な資料の工夫を記述している。授業での活用の仕方を明示した上で、資料の説明ができています。

「Ⅲ」では、「Ⅰ」の持論を継続しながらすぐ具体的な学習形態を展開している。

また、ALにおける実践的な工夫も述べている。後半は、視野を学習指導要領に広げ、その趣旨を理解して、授業を工夫することまで踏み込んでいる。ここまで準備をしていることは、授業担当者にとっても良い意味で想定外であった。

「Ⅰ」と「Ⅲ」の比較では、「Ⅰ」、「Ⅲ」とも持論は共通している。基本的な姿勢は一貫していることがわかる。

「Ⅰ」では、持論の説明にかなりの文章を要しているため、具体的な記述は少なくなっている。しかし、模擬授業で使用する資料の工夫について、具体的に述べている点が評価できる。

「Ⅲ」では、持論からすぐ、学習形態（AL）の実践的な工夫を述べ、その内容をまとめています。さらに、学習指導要領と授業の工夫についても適切に記述している。具体的な資料の工夫についての記述はないが、資料の取り組みを前提としながら、学習

形態の工夫や学習指導要領との関わりまで視野を広げていることが読み取れる。

考察

「Ⅰ」のレポート作成時期は、2年生の6～7月である。模擬授業も多数の学生は、初めての経験であった。「Ⅰ」の講義内容は、基礎的な部分は理解したものと思われる。一方、学習指導案の作成方法など、応用部分では、十分な理解に至らなかったことも予想される。今後の課題である。

「Ⅲ」の作成時期は、3年生の12月～1月であり、模擬授業その他の演習等で、蓄積した知識等を実践してきた時期でもある。そのため、「Ⅲ」の講義内容は、かなり定着し、自分なりに応用できるレベルに達していたと推察できる。例えば、「学習指導要領で何が求められ、授業でどういう工夫をすれば良いのか」ということまで取り組んでいる。

② NO11 学生Kの分析、考察 項目<4> 「Ⅰ」、「Ⅲ」を受講して学んだこと 社会科教育法Ⅰ（2015年7月提出）

この授業を受講し、視聴覚などは、とても良いと感じました。生徒がイメージしやすく、また興味・関心をもつことができ、良いと思いました。また、その場で忘れてしまうことなく後々にも頭に残っていて、記憶に残る授業であると感じました。

生徒目線で生徒の立場になりながら授業を進めてくださったので、学ぶ楽しさ、知る楽しさを学ぶことができました。模擬授業の中で、必ず先生が終わった後には全員にほめ言葉をくださって、私もほめていただいて（中略）、とても嬉しく、今後も頑張ろうと思えました。このことから、ほめることの大切さを知り、改めて学ぶことができました。

社会科教育法Ⅲ（2017年1月提出）

この授業は、私達学生が目線で、また学生のためにという先生の思いがあふれた本当に素敵な授業だと感じました。授業におけるポイントや山場、生徒の興味をひくにはどうすれば良いかなど、とても学びになりました。

また、学習指導案の作成力もついたと思いました。資料の活用においても、いつ、どのタイミングでどのように使うか、とても勉強になりました。

また、指導や授業が困難な学校においても、どのように指導すれば良いのか等、教えてくださり、（中略）将来、もし困難校に行っても高い志を持ち続けたいと強く思う事ができました。

分析

「Ⅰ」では、主に視聴覚教材の意義（印象）と担当者の授業に対する姿勢を述べている。「Ⅰ」の授業でも取り組んだ学習指導案の作成については、記述がなく不明な状況である。定着しきれなかった可能性も予想されるので、全員の分析、考察で注目し判断してみたい。

「Ⅲ」では、「Ⅰ」と同様、授業担当者の姿勢を評価しながら、同時に何を学んだかを具体的に記述している。また、「Ⅰ」の「視聴覚教材」については、幅広く「資料の活用」ととらえ、学んだことをここでも明示している。学習指導案の作成方法についても明記しており、全体として学んだことを具体的に述べている。講義内容は、ほぼ定着したと思われる。

考察

「Ⅰ」と「Ⅲ」を比較すると、「Ⅲ」の方が、具体的な記述が多い。「Ⅲ」での「学び」の深まりを実感する。「Ⅰ」では、「学ぶ楽しさ、知る楽しさを学ぶことができました」のように、社会科教育に対する意欲の高まりを示す内容に注目したい。特に「Ⅰ」では、基礎的知識の定着や授業力の向上に結びつく資質、能力の育成と共に、授業に対する積極的な姿勢の育成が、大切なことだと再認識させられた。

③ NO13 学生Mの分析、考察 項目<1>と<4>

社会科教育法Ⅰ（2015年7月提出） 項目<1>「模擬授業の準備で学んだこと」

心がけた点は、中学生を相手に授業を行っているということである。（中略）
自分が話したいことが難しい内容になっていたら語句の解説を準備し、常に中学生ということを頭において、作業を行った。

努力した点としては、教科書だけでは情報量が少ないと、自分自身が中学生の頃から授業を受ける際に思っていたので、教科書に載っていることプラスαで子どもたちに学びを伝えようとした。（後略）

社会科教育法Ⅲ（2017年1月提出） 項目<1>

私は地理的分野の東北地方の「伝統」や「文化」に焦点をあてて行いました。教科書の中に様々な単元がある中で選ぶのにとっても迷いましたが、生徒に東北の豊かな産業を学んでほしいと思い、選択しました。

特に心がけた点として、教えること、板書することに対して1つ1つ「なぜこうなるのか?」「どうしてこうなるのか?」という裏づけをすべて調べて子どもに教えられるような状態にしていました。（後略）

分析

「Ⅰ」では、授業に対する自分の思いを基に、努力した点を述べている。分かりやすい記述ではあるが、具体的な努力の様子は読み取りにくい。

「Ⅲ」では、具体的に単元設定の理由を示し、深く教材研究に取り組んだことを述べている。また、生徒に何を学んでほしいかも明示してある。

社会科教育法Ⅰ（2015年7月提出） 項目＜4＞「Ⅰを受講して学んだこと」

（前略）浅田先生がたくさん教えたいと思って下さっているのが、身にしみて感謝の思いでいっぱいでした。たくさんの資料を用意するにも、印刷がとても大変ということ、模擬授業で経験したし、資料を作ったりすることの大変さも、身を持って実感することができました。

やはり15回授業を受けた中でも模擬授業がダントツで記憶に残っています。ここで学んだことを忘れずに社会科教育法Ⅱで、模擬授業を行いたいと思います。（後略）

社会科教育法Ⅲ（2017年1月提出） 項目＜4＞

社会科教育法を受け続け、様々な視野・視点から、社会科は学ぶことができると感じました。（中略）私は、今回の社会科教育法Ⅲで自分の力のなさを痛感しました。知識量の少なさ、いざ模擬授業を行うとなると思い通りにはいかないなど、いろんな悔しさを感じましたが、教育実習前に感じることでよかったですと思いました。

あと卒業まで1年と2カ月あります。教育実習、教員採用試験などの乗り越えなくてはいけない壁はたくさんありますが、教師になるこの夢を必ず果たすために、春休みから勉強をさらに頑張っていきたいと思います。

分析

「Ⅰ」では、授業担当者の姿勢を評価し、模擬授業の経験で得たことを強調している。「模擬授業がダントツ・・・」の記述からは、授業を実施して分かることの大きさと、次の授業への意欲が感じられる。

「Ⅲ」では、様々な視野・視点から社会科は学ぶことができるとしながら、自分の力のなさを強く自覚している。さらに、具体的目標として教育実習等を意識している。

考察

NO11 学生Kと同様、「Ⅰ」から「Ⅲ」にかけて成長したことがうかがわれる。「Ⅲ」の＜1＞では、単元設定のプロセス、教材研究の視点について明確にまとめ、

模擬授業に積極的に取り組む姿勢が伝わってくる。「Ⅲ」の＜4＞では、何より「自分の力のなさを実感」したことを認識している。「Ⅰ」に比べ、授業力が上がり様々な課題が明確になったことを示している。

(2) 18名の分析、考察

表2 「Ⅰ」と「Ⅲ」の内容比較（要点）項目＜1＞「模擬授業の準備で学んだこと」

NO		社会科教育法Ⅰの内容（要点）	社会科教育法Ⅲの内容（要点）
1	A	視聴覚、実物、指導案時間管理	困難校、先輩の授業参考、実生活
2	B	授業の流れ、質問想定、PP、クイズ	元気、歴史を身近に（小話等）
3	C	視覚資料、PP、歴史つながり	需要と供給を旅行計画（AL）で実施
4	D	ワークシート、多数友人の協力	インターンシップの学びを活かす
5	E	新聞記事、市民団体を身近に	鎌倉仏教に動画使用、発問を多く
6	F	AL、ワークシート	知的好奇心を刺激、小見出しの入れ替え
7	G	産業革命と炭坑節、クイズ・発問工夫	知識定着重視、発問で記憶
8	H	統計資料活用、適切なヒント	導入工夫（商品選択）、グループワーク
9	I	絵の活用（古墳時代）、身振り手振り	板書案、発言の言葉、人物写真
10	J	新聞切り抜き、ワークシート	理解しやすい授業、生徒が考える課題
11	K	生徒目線、実際の写真、イラスト	AL導入、学習指導要領読み込み
12	L	授業ノート作成、実物活用	授業の流れを授業案で考える（Ⅰの反省）
13	M	教科書補う情報量、質問準備	「なぜこうなるのか？」という裏づけ
14	N	簡潔に伝える、生徒を見る	資料活用の工夫（PP）、説明表現の工夫
15	O	重要語句掲示カード、チョーク	身近な問題と憲法、マグネット教材
16	P	教材研究と伝え方、画用紙活用	板書計画、話の関連性、ハキハキと
17	Q	武将や合戦の画像、現代的な例え	話のつながり、AL、明るく元気
18	R	動画、豆知識の工夫	身近な教材（マクドナルドと円高、円安）

①社会科教育法Ⅰ 内容の分類 ※（ ）内の数字は人数

授業の資料関係 21項目

視聴覚（2）、実物（2）、PP（2）、ワークシート（3）、画用紙活用、武将や合戦の画像、新聞記事（2）、統計資料活用、産業革命と炭坑節、実際の写真、イラスト

ト、絵の活用（古墳時代）、動画活用（2）、豆知識の工夫

授業の進め方 14 項目

指導案時間管理、授業流れ、質問想定、クイズ（2）、歴史つながり、発問の工夫、適切なヒント、身振り手振り、質問準備、重要語句揭示カード、チョーク、教材研究と伝え方、現代的な例え

授業準備 1 項目

多数の友人の協力

授業の方針、授業形態 7 項目

市民団体を身近に、AL、生徒目線、授業ノート作成、教科書補う情報量、簡潔に伝える、生徒を見る

②社会科教育法Ⅲ 内容の分類 ※（ ）内の数字は人数

授業の資料関係 6 項目

鎌倉仏教に動画使用、人物写真、身近な教材（マクドナルドと円高、円安）、資料活用の工夫（PP）、身近な問題と憲法、マグネット教材

授業の進め方 22 項目

元気、歴史を身近に（小話等）、需要と供給を旅行計画（AL）で進める、発問を多く、知的好奇心を刺激、小見出し入れ替え、知識定着重視、発問で記憶、導入工夫（商品選択）、グループワーク、発言の言葉、理解しやすい授業、生徒が考える課題、授業の流れを授業案で考える（Ⅰの反省）、話の関連性、ハキハキと、板書案・計画（3）話のつながり、明るく元気、説明表現の工夫

授業準備 1 項目

「なぜこうなるのか？」という裏づけ

授業の方針、授業形態 7 項目

困難校を想定、先輩の授業を参考、実生活に即して、インターンシップの学びを活かす、学習指導要領の読み込み、AL（2）

分析と考察

「Ⅰ」では、「授業の資料関係」が21項目、「授業の進め方」が14項目であり、合計35項目。「Ⅲ」では、「授業の資料関係」が6項目、「授業の進め方」が22項目であり、合計28項目となる。合計の項目数は「Ⅲ」でやや減少。「Ⅰ」では「授業の資料関係」（21項目）が、「Ⅲ」では「授業の進め方」（22項目）が項目数の中心となっている。

この変化は、例えば、旅行パンフレットのような「授業の資料関係」の準備が、旅行計画を立てるという「授業の進め方」に含まれるという点である。すなわち、「Ⅲ」では、資料の準備を前提としながら、授業の進め方に工夫を加えている。むしろ、「授業の進め方」に応じて、資料を選定しているといえる。

表3 「Ⅰ」と「Ⅲ」の比較 項目≪4≫「社会科教育法を受講して学んだこと」

社会科教育法Ⅰの内容分類（要点）	社会科教育法Ⅲの内容分類（要点）
<p>授業の進め方 「褒めること」の大切さ（2）、それを授業で実践し良かった、視聴覚教材の良さや活用法（8）、人間性が大切、熱い教師目指す、資料準備の大変さ、教材発掘の必要性（2）</p> <p>学習指導案 学習指導案の意味、指導案の大変さ、学習指導案の作り方</p> <p>講義の特質や内容等 教職志望の仲間、毎回大きな学び、模擬授業の経験（5）、先生が教職を楽しむのが一番、大学で履修した授業で一番落ち込みかつ履修して良かった授業、初めてもう1回りスタート切ろうと決意できた、先生の生徒との関わり方に学ぶ、二つの映画の授業場面が素晴らしく大いに学ぶ、将来に直結する授業、老練なテクニックを学ぶ、学生を励ます先生の姿勢に学ぶ、この授業そのものに学ぶ</p>	<p>授業の進め方 視聴覚教材の重要性実感、興味を引き出す実践をしたい、ビデオに学ぶ、資料活用の方法、資料の目利き、模擬授業の学び大、ビデオ教材の使い方、先生自身が授業を楽しむ大切さ</p> <p>学習指導案 「Ⅰ」に比べ理解が高まり学習指導案が書けた、学習指導案の作成力</p> <p>講義の特質や内容等 多くを学ぶ（例多数）、生徒指導の機能を生かした授業、「果報は練って待て」に学ぶ（2）、少人数クラスの良さ（2）、困難校を想定、本気で頑張る（3）、困難校での実体験に学ぶ（4）、先生を目指したい（5）、学習指導案等学ぶ、映像資料に学ぶ（2）、社会科教師の責任と醍醐味、力のなさを自覚、資料活用の方法、資料の目利き、模擬授業の学び大（3）、視聴覚教材の素晴らしさ、楽しくテンポの良い授業に学ぶ、先生の人柄に学ぶ</p>

分析と考察

「授業の進め方」では、「Ⅰ」と「Ⅲ」で大きな変化はなく、視聴覚教材の重要性や活用の記述が中心となっている。

「学習指導案」では、「Ⅰ」で学習指導案の意味や大切さを学び、「Ⅲ」で理解が深まり作成力が定着したことがうかがわれる。「Ⅰ」、「Ⅲ」の授業で、常に「果報は練って待て」の姿勢を促してきた。この姿勢は、教材の収集、発掘や学習指導要領の推敲等に不可欠なものである。「Ⅲ」でこの姿勢が定着してきたことがうかがわれる。

4 授業改善の視点

「Ⅰ」では、学習指導案の作成や模擬授業の実施について、不安を抱える学生が一定数いると予想される。授業が進行するにつれて、その不安は解消していくが、できるだけ早く学習に取り組めるような工夫が必要となる。

学習指導案や授業等についての基本用語の理解なども、スモールステップの指導や演習の実施など、意欲を高める配慮が必要となる。よりていねいな段階的な指導が求められる。

「Ⅲ」では、授業内容の定着はほぼ達成され、さらに授業の成果をどう今後に生か

すかという姿勢も感じられる。また、「授業の方針、授業形態」の項目では、「困難校を想定、先輩の授業を参考、実生活に即して、インターンシップの学びを活かす」などの記述がみられ、より教育現場を意識した内容となっている。学校の様々な場面を想定して、模擬授業を行うことは極めて重要である。以上の状況を踏まえ、改善の視点を次の表のようにまとめた。

表4 授業改善の視点と改善の方向

改善の視点	社会科教育法Ⅰ改善の方向	社会科教育法Ⅲ改善の方向
(1) 学習内容、基本用語の理解	授業内容の精選、配布資料はA4 四枚、基本用語の定義を焦点化	AL の活用による学習内容の定着と深化、AL に活用しやすい資料
(2) 学習指導案の作成	学習指導案形式の配布資料 段階的な指導案の作成	生徒の実態に即した学習指導案の作成、授業視点例を生かした改善
(3) 模擬授業への対応	先輩の言葉を活用、ミニ発表会を実施し教壇に慣れ、充実感を体験	全体計画を周知し質問等を促進 授業と共に学習指導案も評価
(4) 視聴教材の活用	映像資料の活用方法を把握 映像資料から授業の方法を理解	視聴作品を活用し AL を実施 その結果を発表する場を設定

5 授業改善の具体策

(1) 学習内容の定着、基本用語の理解

前述のシラバスで示したように、「Ⅰ」、「Ⅲ」とも前半が講義、後半は模擬授業を設定している。講義の部分で、充実した学習内容を確保するため、配布資料は多めになりがちである。授業で扱いきれないこともあるため、読んでわかるような資料とするよう心がけたが、消化不良気味になるおそれもあった。学生の立場からは、資料そのものが多くなれば、何が重要であるかわかりにくくなる可能性もある。

配布資料について、2015 年度「Ⅰ」のレポートで、次のような指摘があった。

＜4＞ 社会科教育法Ⅰを受講して学んだこと

(前略) 理解力が遅い私にとっては、複数のプリントを行ったり来たりするのが、少しつらい時もありました。もう少し情報量を減らして話の核を分かりやすくしたら、よく理解するのではと思います。しかし気になる点はそれだけで、本当に生徒に沿った授業設計をされていることを痛感しました。(後略)

学習内容の定着については、2016 年度「Ⅲ」のレポートで、次のような記述があった。視聴教材とAL の関連により、学びが深まったことがわかる。

＜４＞ 社会科教育法Ⅲを受講して学んだこと

（前略）前半の浅田先生による視聴教材の学びは大きかった。「ハリウッド白熱教室」からは、その教え方の良い点と改善点を受講者で出し合い、様々な意見を聞くことができ良かった。（後略）

これらの指摘も参考にしながら、次のような改善策を考えた。

「Ⅰ」の改善策

授業内容の精選を図る。配布資料も焦点化、ビジュアル化し、配布資料を A4 四枚分とする。用語の定義や範囲が広い場合、「Ⅰ」における扱いを明確にする。

「Ⅲ」の改善策

AL の活用により、学習内容の定着と深化を図る。配布資料は原則 A4 四枚とし、AL に活用しやすい内容となるよう工夫する。

「Ⅰ」、「Ⅲ」とも配布資料は、A3 両面一枚（A4 四枚分）とし、保存、管理しやすいようにする。1 回の授業における情報量を精選する。

「Ⅰ」では、基本用語を焦点化して理解するようにする。例えば、「単元」(unit) とは、「ひとまとまりの学習内容」であり、授業者の様々な考え方で決まるということを確認する。その上で、「Ⅰ」では、教科書「節」のタイトルを「単元名」とすることを明確にする。学習指導案の作成段階において、この定義で問題等がある場合は、担当者に相談するように確認しておく。このように、場合によって定義等をシンプルにとらえるが、「この授業では」という限定をその都度確認する。一方、教育実習等を控えた「Ⅲ」の授業では、基本用語は幅広く理解できるように心がける。

「Ⅲ」では、「Ⅰ」以上に AL を活用し、学生相互の意見交換の場を設定する。例えば、「良い発問の条件」を理解する際、「ハリウッド白熱教室」（大学の講義記録）を視聴し、発問の条件を話し合い、まとめていく。AL を通じて、「発問の構造化」などの学習内容を具体的に認識することができる。発問計画も立案できるようにする。

（２）学習指導案の作成

一般的に多くの学生は、「Ⅰ」を 2 年生の前期で履修する。そのため、学習指導案の意義や作り方については、理解不足の面が予想される。学習指導案について、2016 年度前期「Ⅰ」のレポートでは次のような記述がある。

（前略）この授業を受講する前までは、指導案というものの意味であったり、どのような形式で作成すれば良いのかも理解していなかったのに対し、この講義を

通して指導案についても多く学ぶことができました。(後略)

「Ⅰ」では、学習指導案の意義と必要性を実感することが出発点となる。そのため、授業の配布資料（A3両面）の冒頭部分は、学習指導案形式にした。教師にとって学習指導案は、羅針盤となることも実感できる。

「Ⅰ」の改善策

配布資料は、学習指導案形式とし、基本様式の習熟を図る。毎回、段階的に学習指導案を作成する。学習指導案を完成する喜びを実感できるよう工夫する。

「Ⅲ」の改善策

学級や生徒の実態を具体的に想定し、「授業改善の視点例」等を生かし、学習指導案を改善する。学習指導案を改善する方法を演習形式で学ぶ。

「Ⅰ」では、配布資料を学習指導案形式とした。学生から、「資料が指導案に似ていたので、常に書き方を勉強している気持ちになった」という意見もあった。また、授業を振り返る際にも、学習指導案形式は、利点が多いことを指摘する。

学習指導案は、第1回より段階的に作成していく。「1 単元名」から「6 本時の目標」まで、担当者が作成方法を説明し、演習形式などで学生が作成し、発表する。

(例) 2016年度前期「Ⅰ」 第1回配布資料 2016年4月6日(水)

1 単元名 社会科教育法Ⅰ 「学習指導案の作成と模擬授業の実施、授業分析の考察とより良い授業の条件の理解」

2 単元の目標 (略) 3 単元の指導計画 (全15回) (略) 4 単元設定の理由 (略)

5 本時の目標 (1) 社会科教育法Ⅰの「目標」と「授業概要」等を確認する。
学習指導案作成の意義を把握し、模擬授業への意欲を高める。
(2) 『果報は「練って」待て』の意義を具体的に実感し、教材開発の方法を理解し、学習指導案作成への意欲を高める。
(後略)

「Ⅲ」では、「Ⅰ」の成果を踏まえ、基本的な学習指導案をまず作成する。その後、授業改善の視点例等を参考にし、生徒の実態に即して学習指導案を検討、改善する。例えば、「6月の暑い日、5時間目に社会科の授業がある」と想定し、特に導入部分を検討、改善する。また、「前の週に京都の修学旅行を終えたクラス」を想定し、「安土桃山文化」の学習指導案を改善する。以下の表は、授業改善の視点例である。

表5 社会科授業改善の視point例 (2017年度社会科教育法Ⅲ 配布資料より)

1	導入の工夫	→第3回資料4「導入の条件例」→第3回資料2「実践に学ぶ」
2	目標の明確化	→第3回資料3「5本時の目標」○掲示カード等の活用
3	発問と指名	→第4回資料2「白熱教室に学ぶ」→第4回資料3「発問等」
4	教科書の活用	→第3回資料2「実践に学ぶ」○本文を読み、図版などを作成
5	板書の工夫	○ルール確認、スピード、タイミング◎構造化→第1回資料4
6	学習形態工夫	→第1回資料4「ALの工夫」→第1回資料4「税金クイズ」
7	やま場設定	→第4回資料3「ねらいに迫る発問」○学習形態等の工夫等
8	流れ、変化	(例)説明を聞く→話し合う→発表する→資料を調べるなど
9	時間管理	○ワークシート等の活用 ○状況の予想→複数の進行表
10	まとめ	○簡潔、印象的なまとめ ○印象的な事例も活用

第8回で提出した学習指導案は、第9回以降模擬授業までに、改善するよう常に働きかけている。この改善の段階での質問は、非常に重要であると強調している。

(3) 模擬授業への対応

「Ⅰ」では、模擬授業への意義を理解し、意欲を高めることが最優先課題となる。模擬授業がほぼ初めての体験となるため、不安を持つ学生が一定数いると予想される。そのため、第1回の授業で、先輩の言葉を紹介する。

また、教壇に慣れ、発表による充実感を体験するため、2017年度前期の「Ⅰ」では、「ミニ発表会」を設定する。例えば、「今まで経験した授業等で、感心した導入の事例を紹介し、その理由も提示する」、「『日本をいくつかの地域に分けよう』の導入段階で、興味・関心を高める発問をする」など、複数の課題を設定し、数分間の発表を行った。このような経験を積むことによって、模擬授業への意欲が高まることも期待できる。

「Ⅲ」では、模擬授業の意義や成果は認識していると予想される。そのため、第1回の授業で全15回の計画を周知し、模擬授業への準備を効果的に行うよう働きかける。充実した模擬授業に向け、予習や質問等の準備が不可欠なことを強調する。また、個別の質問でも、有益なものは全体に解説し、さらに質問を促すように努める。

「Ⅰ」の改善策

先輩の言葉を活用し、模擬授業の意義を理解する。ミニ発表会を実施し、準備の方法や発表の充実感を体験する。

「Ⅲ」の改善策

第1回授業で全体計画を周知し、学習指導案作成や模擬授業実施に向け、予習や質問等を促す。模擬授業と関連して学習指導案の優れた点も見極め評価する。

「Ⅰ」、「Ⅲ」共通の改善策

授業記録と自己評価の流れを改善する。授業者は、実施当日に参観者からのコメントを受け取り、自己評価を行う。

模擬授業について、2016年度前期「Ⅰ」のレポートに、次のような記述がある。

＜4＞社会科教育法Ⅰを受講して学んだこと

最初の授業で、模擬授業の実施があると聞いて、正直なところ履修したくないなと思ってしまった。しかしながら、模擬授業があったからこそ「教師」というものがどういう存在であるか、授業とは何か、ということを学べ、将来のことに少しでも見通しがつくようになった。(中略)

このように、模擬授業に抵抗があることは、自然であることを説明する。同時に、模擬授業に取り組んでこそ、開ける新しい世界への期待を強調する。

次に、同じ学生が、どう授業の準備をしたのかを紹介する。模擬授業に対して「正直なところ履修したくない」と思った学生とは思えない取り組みである。

＜1＞模擬授業の準備で学んだこと

(前略) 模擬授業の準備段階で特に心がけたのは、衣装である。イメージがしにくく親しみや共感をもつことが難しい古代の弥生時代は、いわば歴史の導入部分である。

いなげ屋に行き、麻布を2メートル買い、生涯の宝になると直感したので、丁寧に一針ずつぬい努力した。腰で留める紐は麻のような毛糸をみつ編みにして頑丈にしたり、首もとがほつれないように二重にぬったりと工夫を重ねた。(後略)

「弥生時代」の授業で、この学生が「貫頭(かんとう)の衣」を身に付けた時、教室内のどよめきは印象的であった。この実践以外にも、優れた取り組みを具体的に紹介していく。模擬授業への意識や意欲が、高まっていくと予想される。

「Ⅲ」については、質問タイムを設けるなどして、授業内容でさらに詳しく説明して欲しいこと、学習指導案の書き方等で分かりにくいこと、などを受けつける。良い質問は学びを深めるという点を、具体例を通して実感できるように指導する。模擬授業の際には、授業の良い点はもちろん、学習指導案の優れた内容や研究協議における意見や質問の優れた点を積極的に評価するよう心がける。

また、「Ⅰ」、「Ⅲ」とも、授業者は、参観者の授業コメントを授業終了後に受領し、

次の授業までに自己評価をまとめ、担当者に提出することとした。

(4) 視聴教材の活用

「Ⅰ」、「Ⅲ」とも、授業に視聴教材（映像資料）を活用している。2016 年度前期「Ⅰ」に使用した映像資料の概要を以下に示す。映像資料は、内容を精選し 1 作品につき 3 分～ 10 分程度に編集し、視聴している。

☆大学の講義、SP（スーパープレゼンテーション） □ドキュメンタリー
◇映画、ドラマ ○その他（テレビ CM など）

＜教職の現状理解＞ 1 回□「先生の日」

＜教師の生き方等＞ 1 回□「道を極めるスペシャル」（天ぶら・パン職人）
3 回◇映画「勇気ある者」、6 回◇映画「セント・オブ・ウーマン」
15 回□「負けんじゃねえ」

＜授業方法論＞ 2 回◇映画「博士の愛した数式」、3 回◇映画「勇気ある者」
3 回◇映画「2001 年宇宙の旅」、3 回◇映画「鉄道員」、3 回☆ SP の導入場面
14 回☆「ハリウッド白熱教室～音響効果～」

＜授業の教材例＞ 1 回○「箱根駅伝」CM、2 回○「なごり雪」替え歌
4 回□「映像の世紀」、4 回□「ドキュメント昭和」、4 回◇映画「影武者」
4 回◇ドラマ「関ヶ原」、5 回□「地球大紀行」、5 回□「自動車専用船」
5 回□「戦場の I T ビジネス」、6 回◇ドラマ「奈良へ行くまで」
6 回☆ SP「市場経済」、14 回◇映画「マルサの女」
14 回◇映画「12 人の怒れる男」、15 回□「撃墜 情報戦争」

「Ⅰ」では、中学校社会科で活用できる視聴覚教材（映像資料）例を具体的に学ぶ。映像資料の活用を理解するため、資料の選択、編集、活用、視聴カード等の工夫を身につける。また、映画の導入場面や授業場面を視聴し、導入の条件、説明や発問の仕方など、授業方法論も学ぶ。

例えば、映画「勇気あるもの」は、困難校における教師の生き方を問う作品といえるが、主人公の工夫で、生徒が変容していく様子を描く、授業方法論の映画でもある。この作品を含む 2 本の映画について述べた、2015 年度「Ⅰ」のレポートを引用する。

この授業でとても印象に残っていることは、「勇気あるもの」*⁹という映画と「博士の愛した数式」*¹⁰の授業風景です。「勇気あるもの」では、初めはやる気のなさそうな生徒と先生であったにも関わらず、少しずつ先生が変わっていくことで、生徒達が変わっていき、また先生も変わっていく所が素晴らしいと思いま

した。(中略)

また、「博士の愛した数式」で、ルート（副主人公）は、博士（主人公）から学んだことを紹介しながら、上手に自己紹介していました。生徒の分かりやすく、自然な授業をするためのポイントがたくさんあって凄いなと思いました。(後略)

「Ⅲ」では、視聴作品から AL を行えるような内容が条件となる。視聴作品と AL の関連を述べた、2016 年度「Ⅲ」のレポートを引用する。

前半の視覚教材による学びは、社会科教育法Ⅰの時と比べて得るものが大きかった。「ハリウッド白熱教室」*¹¹からは、その教え方の良い点と改善すべき点を受講者で出し合い、様々な意見を聞くことができて良かった。(後略)

「ハリウッド白熱教室」では、授業の一場面を視聴し、班ごとに話し合いを行う。話し合った内容をわかりやすく発表する場を設定する。「Ⅰ」でミニ発表会を実施しているので、「Ⅲ」でも、発表の充実感を体験する。模擬授業への意欲も高まる。

「Ⅰ」の改善策

映像資料活用のため、資料の選択、編集、活用、視聴カード等の方法を把握する。

授業場面等を視聴し、導入の条件、説明や発問の仕方など、授業方法論も学ぶ。

「Ⅲ」の改善策

視聴作品をもとに AL を行う。結果を発表する場も設定する。

「Ⅰ」、「Ⅲ」共通の改善策

視聴作品のねらいに迫る資料を工夫する。

「Ⅰ」では、視聴覚教材の楽しさ、有意義さを学生自身が実感することが出発点であり、そのためには、授業のねらいに沿った映像資料の編集等が不可欠となる。

2015 年度前期「Ⅰ」のレポートを引用する。

視聴覚教材がいかに分かりやすく、有意義な授業になるかがわかった。また、単にビデオを流すだけでなく、大切な所だけをピックアップすることで、授業が理解しやすいものになることもわかった。(後略)

「Ⅲ」では、視聴作品について AL を行い、学習を深化させることが重要である。「Ⅲ」のレポートにあった「ハリウッド白熱教室」は、授業について AL を行い、内容を深めることができる作品である。

「Ⅰ」、「Ⅲ」とも、視聴教材（映像資料）を活用するには、関連する配布資料の工夫が必要となる。先の「博士の愛した数式」の資料は、次のような内容とした。

（例）映画『博士の愛した数式』2005年「Ⅰ」第2回資料4 2017年4月12日（水）

数学教師となった青年が、新学期の第1回目の授業を行う場面から始まる。ルートは、なぜ自分がルートと呼ばれるようになったのか、なぜ数学を好きになったのか、なぜ教壇に立つようになったのかを生徒へ語る。（中略）

- （1）授業開始（特に初授業）の段階で、大切なことは？
- （2）「数学用語」の説明をどう工夫しているか？
- （3）計算や理解が困難な問題はどう扱うか？（友愛数、ネピア数など）
- （4）黒板に「掲示するカード」の活用法は？
- （5）授業のまとめの段階で、生徒の心に残るような工夫は？
内容、話し方、アクション等の工夫は？
- （6）全体を通して、生徒を尊重し、数学への愛情を率直に語り、品位ある授業となっている。それぞれの具体的な場面は？（後略）

「Ⅰ」の場合、視聴の視点を質問形式で事前に示すことがポイントとなる。授業は4月上旬のため、資料に目を通してから、視聴することになる。

「Ⅲ」では、視聴の視点そのものも、視聴後、AL等により発見することになる。先の「ハリウッド白熱教室」の場合は、以下のような資料を配布し、発問の優れた点とその理由等を話し合い、協議するよう工夫した。

（例）「ハリウッド白熱教室」第3回「Ⅲ」第2回資料2 2016年9月12日（水）

「撮影」すべてのショットには意味がある ドリユー・キャスパーの「映画論入門」

☆教師の説明と発問

◇学生の応答

<p>（前略）☆（説明）今日3回目の上映、映画「陽のあたる場所」、注目して欲しいのは、カメラと被写体の距離、カメラは動いているかどうか？をもう一度見てみよう。</p>	
<p>☆1 カメラと被写体の距離は？</p>	<p>◇1 カメラはどんどん二人に近づいていきます。</p>
<p>☆2 アングルは？ ☆（アングルの説明）</p>	<p>◇2 最初は正面、バルコニーでは下から。</p>
<p>☆3 監督は、なぜカメラごと移動させたのか。</p>	<p>◇3 時間を縮めたかったから。</p>
<p>☆4 うーん…それはまちがっているな。短縮したいならすぐ場面を切り替えるべきだ。なぜだろう。</p>	<p>◇4 外に出る必要があったから。</p>

☆5 たしかにそれもある。他に理由は？	◇5 時間の流れに変化を与えるため。
☆6 今のは、私の言いたいことを少し違った言い方で説明してくれた。	(後略)
☆7 これは非常に緊張した濃密なシーンだ。続けるためには、「間」を与える必要がある。	

6 まとめ

本稿をまとめるにあたり、授業改善の視点から学生の提出物を再読してみた。そこで実感したのは、「学生の実態に対応した授業」が不可欠であるという、原点ともいえる事実であった。

学生のレポートは、授業をどこまで理解し、思考を深めたか等を、教師が評価するものである。しかし、視点を変え読み込めば、「学生による授業評価」にもなり得るという事実を確認することができた。

本稿は、同一の学生が、二年生前期（社会科教育法Ⅰ）と三年生後期（社会科教育法Ⅲ）に提出したレポートを比較、分析、考察したものである。これにより、学生の成長の実態が明らかになり、それぞれの時期に応じた授業改善の視点と具体策を明らかにすることができた。授業改善の視点は以下の四点である。

- (1) 学習内容、基本用語の理解（「Ⅰ」基本用語の焦点化、「Ⅲ」ALの活用）
- (2) 学習指導案の作成（「Ⅰ」段階的な指導案作成、「Ⅲ」実態に即した指導案作成）
- (3) 模擬授業への対応（「Ⅰ」先輩の言葉を活用、「Ⅲ」全体計画を周知し質問促進）
- (4) 視聴教材の活用（「Ⅰ」映像資料の活用方法把握、「Ⅲ」作品を資料にAL実施）

今回は、レポートの二つの項目を分析、考察し、四つの視点から具体策を提言した。今後の課題は、四つの項目すべてを関連付けながら分析を深め、さらに多くの改善の視点と具体策を提言することである。

分析対象のレポートは、最終回に提出されたものである。今後は、「中間レポート」の実施も課題となる。前半の授業終了時に実施し、後半の授業改善に生かすことも重要である。この場合、項目内容の検討が必要である。これも今後の課題である。

学生の文章は、様々なことを示唆してくれた。学生の指摘によって、自分の授業を多面的に見直すことができ、新たな発見を得ることもあった。今後も学生と共に授業改善に取り組んでいきたい。次の文章は、その一例である。

レポート（2016年度後期「Ⅲ」）を引用して結びとする。

社会科教育法Ⅲの授業では、社会科の授業の方法だけでなく、教育において大切な心や、浅田先生の経験を通し、教育現場で起こる大切なこと、嬉しいことを

直接的に教えて頂くことができました。

学習指導案はあくまでも授業をするための準備を、あらかじめしておいて生徒に教えるものですが、その指導案を作る過程で生徒のことをどれだけ考え、色々な工夫ができるかということ。また、その思いがあると普段の生活でも教材探しをするようになるということを教えて頂き、自分もここまで授業作りに力を注ぐ先生になりたいと思いました。(後略)

注

- 1 “教員の考える「いい授業」・学生の考える「いい授業」” 第1回FD研修会 報告 2006年11月 法政大学FD推進センター pp.1-8.
- 2 “大学の授業改善—実践からの省察—” 東正訓『追手門学院大学教育研究所紀要』第31号 2013年3月 pp.82-91.
- 3 “大学の授業改善に関する試論” 太田和敬『人間科学研究』文教大学人間科学部 第29号 2007年 pp.25-33.
- 4 “授業改善に直結する学生授業評価の検討(Ⅱ)—新学生授業評価アンケート調査の策定に向けて—” 田実潔、鈴木剛、岩本一郎、古谷次郎、後藤靖宏『北星学園大学社会福祉学部北星論集』第51号 March 2014 pp.81-90.
- 5 “授業アンケートを教育改善サイクルに活用する：回答率を向上させ、学生から建設的な意見を得るための工夫” 橋本智也 情報誌『大学評価とIR』第4号 平成27年(2015年)12月[大学評価コンソーシアム] pp.3-17.
- 6 「平成26年度の大学における教育内容等の改革状況について(概要)」平成28年12月13日 文部科学省高等教育局 大学振興課大学改革推進室
- 7 “学生による授業評価は授業の改善に役立っているのか?” 藤田勉、川島眞『長野県短期大学紀要』第70号 2015年 pp.57-60.
- 8 第15回の「レポート」については、事前にシラバス等で周知してある。提出用紙は、下書き用を含め、第5回に配布し、その後2回程度再配布する。
- 9 映画「勇気あるもの」(Renaissance Man) 1994年 アメリカ
- 10 映画「博士の愛した数式」2005年日本
- 11 「ハリウッド白熱教室」(第3回「撮影」すべてのショットには意味がある) Eテレ 2013年6月28日(火)放映

Teaching Methods for Social Studies Responding to the Actual Conditions of Students' Improvement

— Analysis and Consideration of Submitted Materials to be Used for Class Evaluation —

Hiroshi ASADA

As for improving classes at universities, many practices have been accumulated, mainly on faculty development (FD). Also, “student assessment of teaching” that makes full use of the students voice to improve classes can be said as a representative effort.

This paper analyzed students submissions and explored ways to improve the classes. The students report evaluated the extent to which the lessons are understood and the thought deepened by the teacher. However, if we change the viewpoint and read it, it can be “evaluation of lessons by students”.

In this paper, the same student compared, analyzed and considered the reports submitted to the first year of sophomore (Teaching Methods for Social Studies I) and late third year study (Teaching Methods for Social Studies III). This will clarify the actual situation of student growth, and can clarify the viewpoint and concrete measures for improving classes according to each step. The viewpoints of improving classes are as follows;

1. Understanding of learning contents and basic terms
2. Preparation of learning guidance proposal
3. Implementation of simulated lessons
4. Utilization of viewing teaching materials

This report analyzed and considered the two items of the report and recommended concrete measures from the four perspectives. It is a future task to proceed with analysis while correlating all four items, to propose more viewpoints of improvement and specific measures.